

千葉歴史の散歩道

石器から分かる 「石の採れない土地」千葉県の持つ魅力

千葉県教育庁教育振興部文化財課発掘調査班文化財主事 あらき こうだい
荒木 昂大



千葉県の主要生産物といえば落花生が有名だが、他にも多くの作物が国内トップクラスの産出額となっている。農林水産省の生産農業所得統計によれば、落花生のほか計8品目が全国1位の産出額である（令和4年産）。2位、3位まで広げればさつまいも、にんじん等さらに増える。千葉県は全国有数の「採れる」県である。

しかし、一万年以上前の旧石器時代、現在の千葉県である房総半島は「採れない」地域だった*。食べ物のことではない、石器に用いる石材のことである。

石器に適した石というのは何種類かある。黒曜石、頁岩^{けつがん}、サヌカイト等が知られるが、共通しているのは狩りや加工の道具として刺したり切ったりできるよう、割った時に固く鋭い刃ができる石材である点だ。これを満たす石材が房総半島には乏しい。例えば有名な黒曜石は、溶岩が冷えて固まった天然のガラスで、火山周辺で採取されるものだが、近隣に火山のない房総半島ではまともに見つからない。石器がないと道具が作れず食べ物の獲得にも困ってしまう。石材の獲得は旧石器時代の人々にとって文字通り死活問題だった。

では、「石の採れない」房総半島は当時の人々にとって重要ではない土地だったのか。そうでないことは発掘調査が証明^{すみふるさわ}してくれている。酒々井町の国指定史跡墨古沢遺跡をはじめ、千葉県には988の旧石器時代遺跡がある（2010『日本列島の旧石器時代遺跡』日本旧石器学会）。他県と比べても多いこれらの

遺跡で発掘された石器を分析すると、高原山（栃木県）や霧ヶ峰等（長野県）、神津島（東京都）で採れる黒曜石、東北地方で採れる頁岩、群馬県の黒色ガラス質安山岩、茨城県のメノウ等々の石材で作られたことが分かる。

こうした発見は当時の人々がどれほどの範囲で活動していたのかを考える一助となる。遊動する狩猟採集民であった旧石器時代の人々は、石材の採れる地域と採れない房総半島の両方を活動域に取り入れていた。

他にも、石器自体をよく観察すると、持ってきた原石を無駄なく生かす割り方の工夫や、同じ石器を何度も割り直して小さくなるまで使い続けるような工夫が見てとれる。石材が採れない土地ならではの知恵と言えるだろう。

石器時代の人々が房総半島に訪れていた理由、それは石がなくとも魅力的な土地であったからだろう。近年の研究では旧石器時代の房総半島北部は関東有数の良好な狩猟場だった可能性が示唆されている。また、海に囲まれた房総半島は水産資源も豊富であったことであろう。千葉県の豊かな自然と食料資源は、昔も今も人々を惹きつけ続けているのだ。



千葉県では「採れない」黒曜石

※千葉県内にも一部石器用石材が採取できる地域はあり、県南や銚子産のものが石器利用されている。

千葉教育 蓮 (No. 686) 令和6年6月20日発行

編集・発行

千葉県総合教育センター（代表）酒井 誠一

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所

千葉市療育センター いずみの家

〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3

TEL 043-216-2465